



FUTURE•

Future Report 2018

2018.01.01 - 2018.06.30

フューチャー株式会社 TSE 1ST SECTION:4722

ごあいさつ

最新技術の活用と創造的思考により ビジネスと社会の未来をデザインする

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

フューチャーグループは、経営戦略とIT戦略を両輪で考えるというコンセプトのもと、お客様の未来価値を最大化させることをミッションに事業を拡大してきました。また、戦略的ITをお客様に提供する従来のITコンサルティング事業と、戦略的ITをグループ内で共有し、デジタルマーケティング、IT教育、ECなどの分野においてビジネスイノベーション事業を展開する2WAY戦略により、シナジー効果を創出しグループ全体の未来価値を向上し続けています。

AIやIoTなどのテクノロジーが飛躍的な進化を遂げる中、ビジネスや社会に求められる価値も変化しています。私たちは、これからも最新のテクノロジーを駆使し、明るい未来に向けてビジネスや社会のあるべき姿を実現すべくグループ全体で尽力してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2018年9月



フューチャー株式会社
代表取締役会長 兼 社長 グループCEO
フューチャーアーキテクト株式会社
代表取締役会長

金丸恭文



フューチャー株式会社
取締役副社長
フューチャーアーキテクト株式会社
代表取締役社長

東裕二

当グループの現状及び今後の戦略について

2018年12月期 第2四半期(累計)の事業概況

2018年12月期 第2四半期のハイライト

01

連結売上高は
前年同期比10.2%増の
190.3億円

02

連結営業利益は
前年同期比41.2%増の
26.1億円

2018年12月期第2四半期(累計)の連結業績は、売上高19,034百万円(前年同期比10.2%増)、営業利益2,612百万円(同41.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,045百万円(同37.5%増)となりました。

ITコンサルティング&サービス事業では、オープンテクノロジーを活用しつつ、独自に開発した技術を付加価値として、「経営とIT」の最新デザインの提案に注力しています。AI技術を活用した画像解析、需要予測、融資審査などのプロジェクトや、次世代システムのグランドデザインに向けたプロジェクトが拡大したことから、売上高・営業利益ともに増加しました。

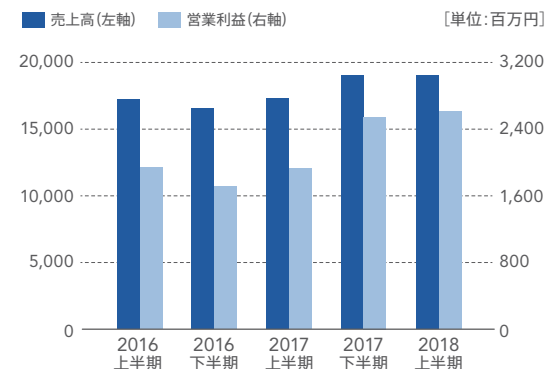
ビジネスイノベーション事業では、東京カレンダーが好調に推移しました。また、テクノロジー人材の育成事業や、スポーツにおけるデータ活用事業の業績が改善したことから、増収となり営業損失が縮小しました。

株主還元策

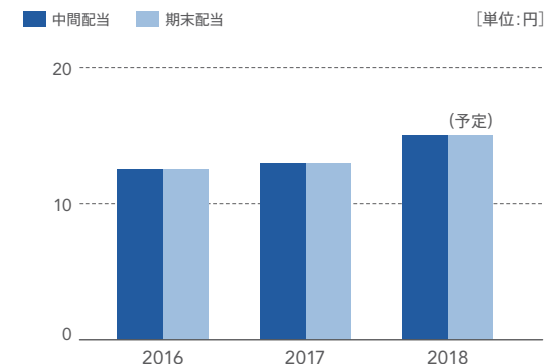
株主の皆様への利益還元を重要な経営課題として位置づけ、持続的な成長を図るための内部留保資金を確保しつつ、期間損益、キャッシュ・フローの状況、自己株式の買付状況等を総合的に勘案して、連結の配当性向35%以上を目安に株主還元を実施しています。

この方針に基づき、2018年12月期の年間配当金については1株当たり30円(4円増配)を予定しており、中間配当金については1株当たり15円(2円増配)をお支払いすることを決議いたしました。

[連結] 半期別業績推移



1株当たり配当金



IT戦略パートナーとして、次世代基幹システムの構築を支援

産業の発展を牽引する働き手や経済成長を支える消費者が少子高齢化などにより減少傾向にある中、AIやIoTなどの新たな技術を活用することでマーケティングの効率化やサプライチェーンの高速化を図り豊かな社会を実現しようという動きが活発になってきています。

社会の変化や技術革新により、多くの企業において働き方や業務の抜本的な改革と、それに伴う基幹システムの再構築が本格化しています。創業当初よりオープンかつリアルタイムなシステムを前提に多種多様な業種のお客様のIT戦略パートナーとしてその成長をサポートしてきたフューチャーグループは、新しい時代に適合した次世代基幹システムのグランドデザインの提案に注力しています。これらのプロジェクトをシステム設計・開発のフェーズへと進展させることで、さらに多くの企業でのより高度で広範囲なIT活用をサポートし、ビジネスの拡大に貢献していきます。

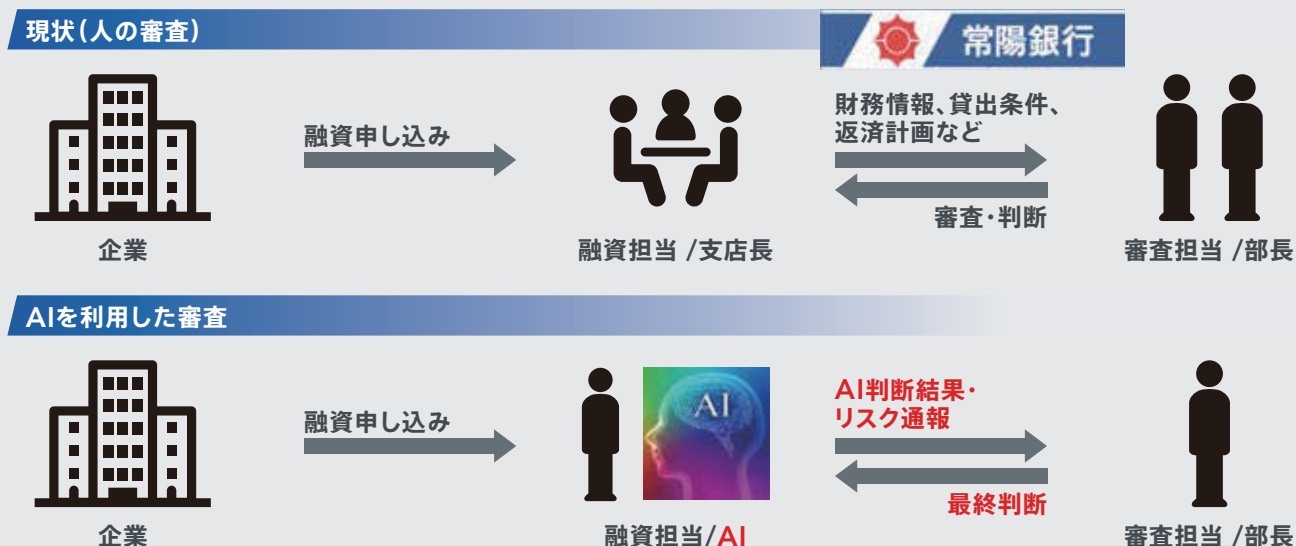


AI技術でビジネスや社会の未来価値を向上

機械学習・深層学習などAIに対する注目が高まる一方、お客様自身が具体的な活用イメージを描くことや、投資対効果を見極めるのは困難であるという課題も明らかになってきました。フューチャーグループは、AIを企業の重要課題の解決や生産性の大幅な向上に役立てていただけるよう、AI技術に特化した専門組織「Strategic AI Group」を2018年3月に新設し、AI活用コンサルティングサービス「Future AI」を提供しています。

「Future AI」は、AIを活用した自動発注や需要予測システム、問い合わせメールの自動振り分けシステムの構築など、フューチャーグループのこれまでの実績をベースとしています。銀行の融資支援システムでの実証実験では、AIが融資担当者と同水準の判断を行えるだけでなく、判断の早期化によって人員配置の効率化などにも貢献できることが確認されました。フューチャーグループは、AIを活用した戦略立案、仕組みづくり、効果創出、最終的には実用化までをトータルにサポートすることで、ビジネスの変革を支援します。

銀行の融資審査システムの実証実験



チームの強化に向けて、選手のプレーをAIで科学的に評価

ライブリッツは、スポーツにおけるデータ分析ノウハウと独自のシステム開発・運営の技術力を活用して、企業のIT武装を支援するコンサルティングサービスを提供しています。プロ野球においては、チームの戦力強化や人材育成を支援する戦略システム、オリジナルの野球選手トラッキングシステム「Fastmotion」の開発・提供の実績があります。

この「Fastmotion」を12球団で初めて導入したのが、福岡ソフトバンクホークスです。ヤフオクドームと二軍球場に設置した高解像度カメラで投球・打撃・守備・走塁動作を撮影し、データ化してAIによって分析することで、経験や勘に頼りがちだったプレー分析を科学的かつ客観的に行えるようになりました。守備範囲、守備位置、打球への反応速度、走者の塁間スピード、加速度、コースの取り方等が統計に基づいて指標化されるため、対戦相手の分析や自身の戦力アップに寄与します。

また、ファンクラブ等、球団事業向けのシステム構築も手がけており、今後はさまざまなスポーツのファンや団体を支援するビジネスにも取り組んでいきます。



*日本野球機構とともにプロ野球記録データ活用プラットフォームを構築

2020年のプログラミング教育必修化に向けて、小中学生向けサービスを拡大

社会のデジタル化が進む中、IT分野における国際競争力の強化を重視する欧州、米国、中国などでは、自らITを活用し新しいサービスを創造できる人材を育成するために、学校教育にITやプログラミングが導入されています。日本でも、2020年度に小学校でのプログラミング教育が必修化されます。

コードキャンプでは、8,000人以上の社会人、200社以上の企業にプログラミング教育・研修サービスを提供しているほか、2017年からは高等学校と連携した取り組みを進めてきました。また、2017年10月には小中学生向けのプログラミング教室「CodeCampKIDS」を開校するとともに、2018年4月にはコンテンツをオンライン化した「CodeCampKIDS Online」の提供を開始しました。さらに、直営教室で培った運営ノウハウをアフタースクールや学習塾などの事業者提供し、フランチャイズ展開も進めています。



特集

- Feature -

女性が活躍する環境づくり

Future Work Style

フューチャーグループでは、企業の永続的な成長とプロフェッショナルである個人の付加価値の向上を目指し、社員が働きやすい多様で柔軟なワークスタイル「Future Work Style」を掲げています。また、結婚、出産、育児、介護などのライフイベントに対応した働き方を促進するための制度の拡充に取り組み、一人ひとりが最大限の価値を發揮しながら、ビジネスや社会に貢献できるよう、オープンな評価制度などの環境づくりを進めています。

今回は、フューチャーグループで活躍する女性社員をご紹介します。

フューチャー女性社員に聞いてみました①

休日もメンバーと一緒にわいわい遊んでいます！

1位 **サバサバ** 69%

2位 **負けず嫌い** 44%

ユニークな人ばかりで、みんなすごい面白いです！

3位 **向上心がある** 42%

4位 **個性的** 38%



フューチャーの女性社員の 特徴を教えてください

フューチャー女性社員に聞いてみました②



成果で評価されるので差を感じたことはありません

YES!

75.6%

女性だと、お客様にすぐに名前を覚えてもらえることも！

男女の差を感じることなく働いていますか？



YES!

95.6%

周りのフォローのおかげでフレキシブルに働いています

結婚や出産後、継続して働きたいですか？



及川裕子

フューチャーアーキテクト マネージャー
2013年キャリア入社

今年の春に育児休業から復帰しました。復帰前後の面談で働き方を相談できるのですが、出産前と同じように働きたいと考え、時短勤務ではなくフルタイム勤務を選びました。働き方自体は変わりましたが、仕事に対する意識が全く変わっていないのには自分でも驚いています。フューチャーでは、誰が何を任せられ、どのように評価されているのかがオープンなのが非常によいと思います。



坂下陽子

東京カレンダー 取締役
2000年新卒入社

以前に女性社員たちで「女性が働き続けられる環境」について話し合ったところ、いままでと同様に公平に扱ってほしいというのが結論でした。一人ひとりの価値を大切にしながら、一つの目標に向かってチームワークを発揮するのがフューチャーの仕事のスタイルです。互いにプロフェッショナルとして尊重し合う文化が、働きやすさにつながっていると思います。



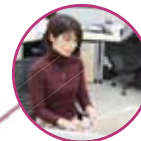
小祝久美子

フューチャーアーキテクト ディレクター
2004年キャリア入社

自分にしかない専門性が、 自由な働き方をつくり出す

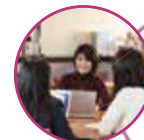
結婚も出産もフューチャーに転職してから経験しました。私は出産後も仕事を続けていきたいと考えていたので、20代後半から、自分にしかない専門性を持つ付加価値の高いコンサルタントになることを意識してきました。家庭を持つと自分の時間を100%自分のためだけに使うことは難しくなりますので、信頼して仕事を任せられるよう、まわりの人材を育てていくことも大切だと感じています。

one day



8:40

世界各地から夜のうちに届いたメール。てきぱきとチェックして返信。



10:00

報告や相談にはメンバーが成長するためにどう答えたらいいかを考えながらコメント。



14:00

各部門のトップへプレゼン。事実をベースにわかりやすく論理的な提案を。



18:30

退社後は子どもたちとご飯を作ったり宿題を見たり。無邪気な笑顔に心もなごみます。

フューチャーの業績・財務状況

連結貸借対照表 ー決算のポイントー

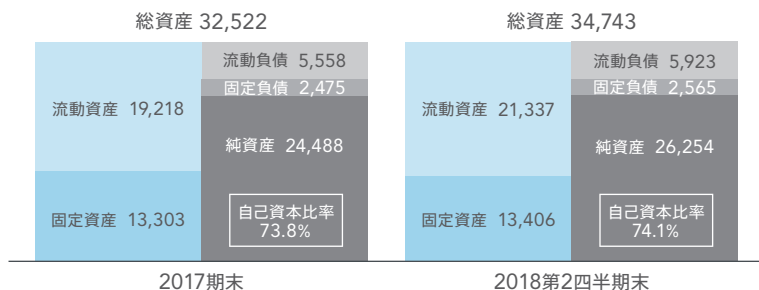
- ▶ 総資産は、現金及び預金等の増加により、2017年度末比2,221百万円増加
- ▶ 負債は、未払法人税等の増加により、2017年度末比455百万円増加
- ▶ 純資産は、その他有価証券評価差額金及び利益剰余金の増加等により2017年度末比1,766百万円増加

[単位:百万円]

	前連結会計年度末 2017年12月31日現在	当第2四半期連結会計期間末 2018年6月30日現在
流動資産	19,218	21,337
固定資産	13,303	13,406
流動負債	5,558	5,923
固定負債	2,475	2,565
純資産	24,488	26,254
総資産	32,522	34,743

総資産の推移

[単位:百万円]



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。

連結損益計算書 ー決算のポイントー

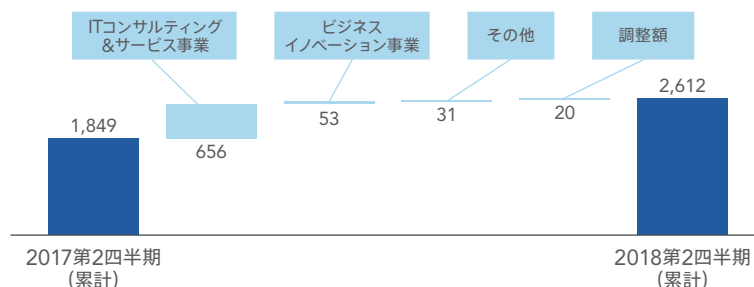
- ▶ ITコンサルティング&サービス事業において売上高・営業利益が前年同期比で増加、ビジネスイノベーション事業において営業赤字が減少したことにより、全体の売上高・営業利益ともに増加

[単位:百万円]

	前第2四半期連結累計期間 自2017年 1月 1日 至2017年 6月30日	当第2四半期連結累計期間 自2018年 1月 1日 至2018年 6月30日
売上高	17,265	19,034
売上総利益	7,026	7,701
販売費及び一般管理費	5,176	5,088
営業利益	1,849	2,612
経常利益	2,097	2,762
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,487	2,045

営業利益の増減要因

[単位:百万円]



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。

連結キャッシュ・フロー計算書 ー決算のポイントー

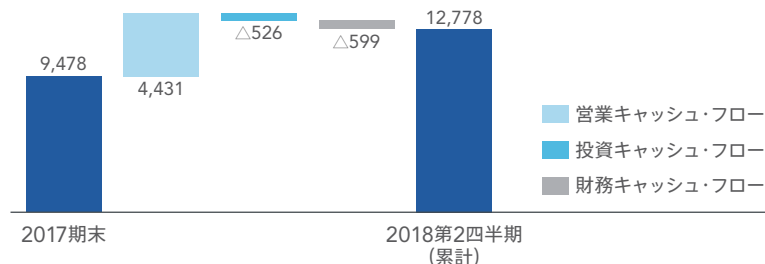
- ▶ 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の計上や訴訟関連の収入等により、4,431百万円の収入
- ▶ 投資活動によるキャッシュ・フローは、無形固定資産の取得による支出等により、526百万円の支出

[単位:百万円]

	前第2四半期 連結累計期間 自2017年 1月 1日 至2017年 6月30日	当第2四半期 連結累計期間 自2018年 1月 1日 至2018年 6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	407	4,431
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,566	△526
財務活動によるキャッシュ・フロー	△609	△599
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3	△6
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	△2,771	3,299
現金及び現金同等物の期首残高	11,761	9,478
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,989	12,778

キャッシュ・フローの推移

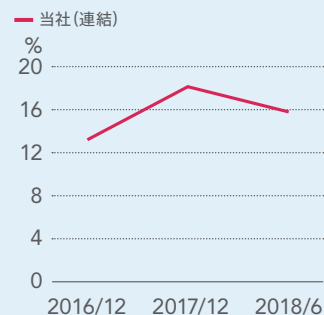
[単位:百万円]



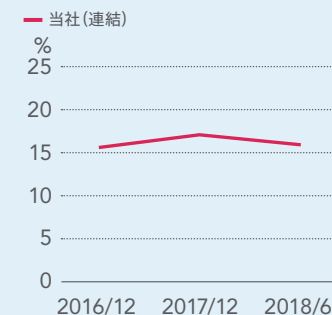
※現金及び現金同等物に係る換算差額については記載を省略しています。それにより生じるグラフの誤差については調整しています。

フューチャーの投資指標

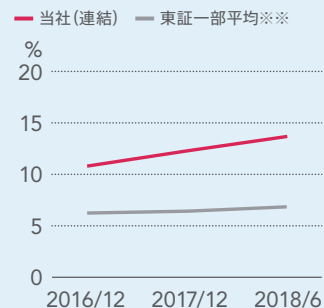
自己資本当期純利益率(ROE)※



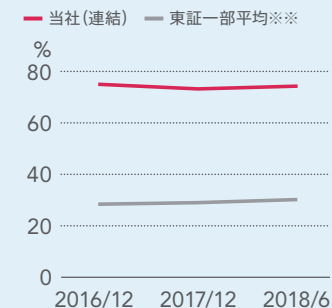
総資産経常利益率(ROA)※



売上高営業利益率



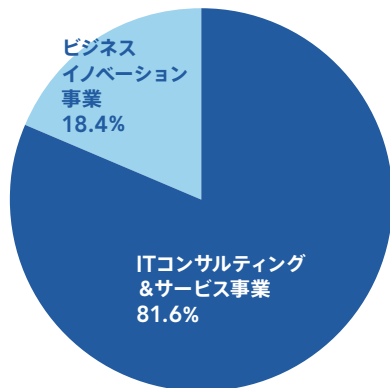
自己資本比率



※自己資本当期純利益率・総資産経常利益率の2018年6月の数値は年率換算しております。
 ※※2016年3月期、2017年3月期、2018年3月期決算短信(非連結を含む)を発表した東証一部上場会社のうち、変則決算会社・各期における新規上場会社・金融業に係る集計対象会社を除いた会社の平均値。(出典:東京証券取引所統計資料)

フューチャーのセグメント別業績・戦略

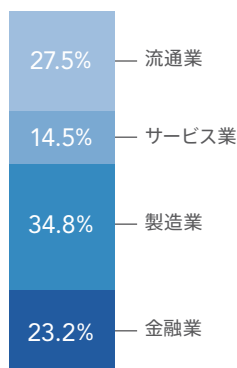
セグメント別売上高構成比 2018年第2四半期(累計)



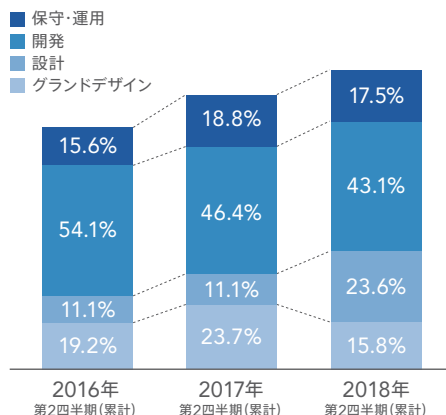
注)セグメント間取引は含んでいません

ITコンサルティング&サービス事業における業種別売上高構成比

2018年第2四半期(累計)



ITコンサルティング&サービス事業におけるフェーズ別売上高構成比推移



※フューチャーアーキテクト、ワイ・ディ・シーおよびフューチャーアーキテクトからフューチャーインスペースに移管した保守・運用案件を合算しています。調達品およびその保守は含んでおりません。

2018 上半期レビュー

ITコンサルティング&サービス事業

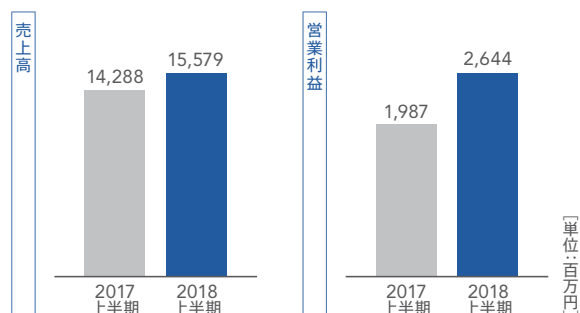
- フューチャーアーキテクト、フューチャーインスペースは、AIを活用したプロジェクトの拡大に加え、アパレル、流通小売、食品製造、メディア等のお客様に対する次世代システムのグランドデザイン案件が拡大したことで、売上高・営業利益ともに増加しました。
- ワイ・ディ・シーは、品質情報統合解析ソフトウェア「YDC SONAR」のライセンス売上の増加、製造業向けのシステム開発の増加などにより、増収・増益となりました。
- FutureOneは、売上100億円以下の中堅企業にフォーカスしたことから、オリジナル販売管理パッケージソフト「InfiniOne」の売上が好調で、増収・増益となりました。

ビジネスイノベーション事業

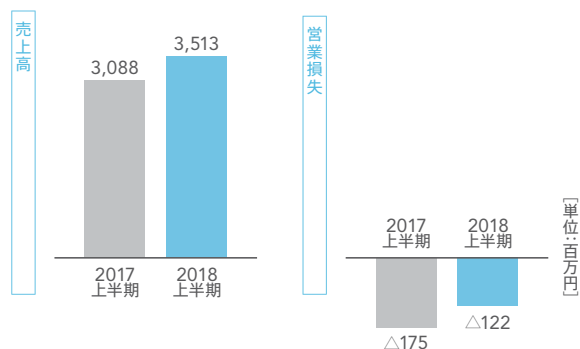
- 東京カレンダーは、月間ページビューが昨年末の4,700万から5,300万に増加するとともに、マッチアラム株式会社を吸収合併したシナジー効果などにより、増収・増益となりました。
- ライブリッツは、プロ野球球団の強化システムやファンクラブ向けのシステム開発により売上が増加し、第2四半期(累計)の営業利益が黒字化しました。
- コードキャンプは、法人向けの新人・キャリア研修メニューの売上増加などにより、営業利益の大幅改善とともに黒字化を達成しました。

2018 上半期実績

ITコンサルティング&サービス事業



ビジネスイノベーション事業



今後の見通し

ITコンサルティング&サービス事業

フューチャーグループは、「経営とITをデザインする」ことを経営戦略の中心に掲げており、今後はさらにAIに注力していきます。

フューチャーアーキテクトでは、「Strategic AI Group」との連携によって、地方銀行における融資審査、小売業における需要予測や画像解析、物流業における輸送ルートの最適化など、AIやIoTを活用した提案に積極的に取り組んでいきます。また、新規顧客の次世代基幹システム構築に向けた取り組みを、ランドデザインのフェーズからシステム設計・開発のフェーズに進展させることで売上を拡大していきます。

ワイ・ディ・シーでは、独自の物流ソリューションをグループの顧客へ提供するなどの動きが活発化しており、今後もシナジー効果の拡大を図っていきます。

FutureOneは、オリジナルのパッケージソフトウェアの受注拡大に向けて、販売パートナー会社との連携強化やクラウドサービスの拡大により、中堅企業へのアプローチを強化していきます。

ビジネスイノベーション事業

東京カレンダーは、30代から40代の所得の高い層にターゲットを絞り、動画コンテンツのスピーディな作成・配信により引き続きページビューやユーザー増加を図っていきます。また、ユーザーのライフイベントに即したサービスを展開するプラットフォームの実現を目指すとともに、月刊誌、WEB、イベントといった複数のメディアを活用して広告収入の拡大を図ります。

コードキャンプは、法人や社会人向けのオンライン・オフライン教育メニューの拡充に加え、子ども向けのコンテンツの拡充や教室のフランチャイズ化を進めることにより、収益基盤の確立と通期における営業黒字化を目指します。

eSPORTSは、楽天市場やアマゾンなどの既存プラットフォームに加えて、新たなeコマースのあり方を追求していきます。フューチャーアーキテクトからスペシャリストを経営陣として派遣し、グループのテクノロジーを活用した価格や売れ筋に関する科学的な分析などに取り組んでいきます。

会社概要 (2018年6月30日現在)

会社名	フューチャー株式会社
英文社名	Future Corporation
設立	1989年11月28日
資本金	14億21百万円
従業員数	1,924名(連結)

役員 (2018年6月30日現在)

代表取締役会長 兼 社長	金丸 恭文
取締役副社長	東 裕二
取締役副社長	石橋 国人
取締役CTO	齋藤 洋平
取締役(常勤監査等委員)	牧 保
取締役(監査等委員)	川本 明
取締役(監査等委員)	三田村 典昭
取締役(監査等委員)	渡邊 光誠

主要な連結子会社の状況 (2018年6月30日現在)

■フューチャーアーキテクト株式会社	
■フューチャーインスペース株式会社	
■株式会社ワイ・ディ・シー	
■FutureOne株式会社	
■株式会社マイクロ・シー・エー・デー	
■株式会社eSPORTS	
■東京カレンダー株式会社	
■コードキャンプ株式会社	
■ライブリッツ株式会社	
■フューチャーインベストメント株式会社	他8社

主な事業所 (2018年6月30日現在)

当社	
本社	〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー TEL : 03-5740-5721 FAX : 03-5740-5820
大阪オフィス	大阪市中央区
名古屋オフィス	名古屋市中区
フューチャーアーキテクト株式会社	
本社	東京都品川区
大崎ウエストオフィス	東京都品川区
ThinkParkオフィス	東京都品川区
鹿児島オフィス	鹿児島県鹿児島市

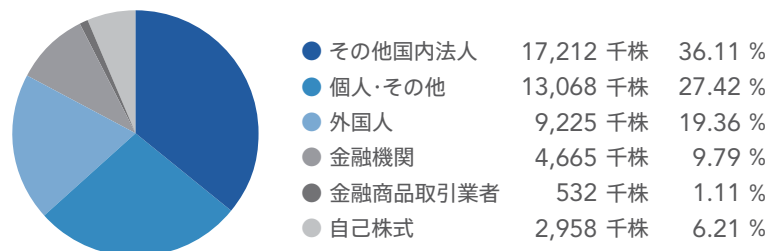
株式の状況 (2018年6月30日現在)

発行可能株式総数 189,376,000株
 発行済株式の総数 47,664,000株
 株主数 4,845名

大株主

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
合同会社キーウェスト・ネットワーク	15,093	31.66
金丸 恭文	5,558	11.66
フューチャー株式会社	2,958	6.20
SGホールディングス株式会社	2,000	4.19
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,634	3.42
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE HCR00	1,589	3.33
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224	1,414	2.96
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,020	2.14
GOVERNMENT OF NORWAY	876	1.83
BBH FOR FIDELITY PURITAN TR:FIDELITY SR INTRINSIC OPPORTUNITIES FUND	622	1.30

株式の所有者別状況



ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関(三井住友信託銀行)にお問合せください。なお、三井住友信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主メモ

決算期 12月31日 期末配当 12月31日
 定時株主総会 3月 中間配当 6月30日

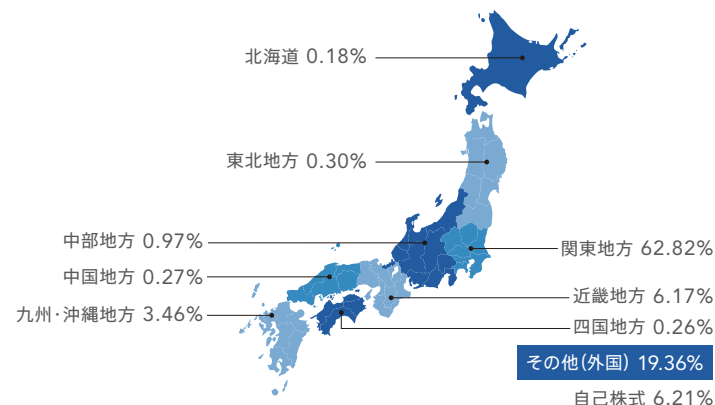
株主名簿管理人・特別口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
 (連絡先・照会先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 フリーダイヤル:0120-782-031
 ホームページ:

<https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

公告掲載URL <https://www.future.co.jp/hd-ir/notice/index.html>

ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合には、日本経済新聞に公告いたします。

株式の所在地別状況



注意事項

本レポートには、現時点における情報に基づいた将来にかかわる予測が含まれております。それらは今後の日本経済やITサービス業界の動向などにより、変動する可能性がございます。従って、当社がその確実性を保証または約束するものではないことも予めご承知おきください。

Future Report 2018

フューチャー株式会社

本社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2
TEL:03-5740-5721 FAX:03-5740-5820

<https://www.future.co.jp>